

# 7月のほけんだより

令和2年 第236号

## 子どもの発達が気になる時...

子どもの育ちには、その子の特性とその育つ環境とが影響しており、「周囲の他の子と比べた時に何か反応が違う」ということがすぐに、「障害がある」ことにはなりません。

「障害」という言葉が出ると、保護者や保育者はとても慎重になり、できれば何もないことを望み、発達についての話題を避けるかもしれません。その結果一人で悩んだり、しつけをきびしくしたり何でも許したりと一貫しない養育方針になるかもしれません。

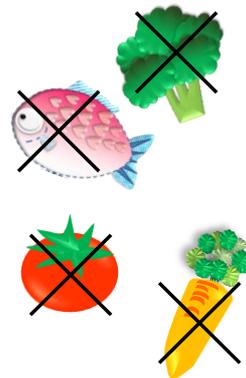
### 「発達障害」という言葉を目にしたことがあるでしょうか。

脳機能の発達の偏りがある「発達障害」は、出来事の受け取り方が定型発達とは異なっていることがあります。こちらが伝えたいことについても、一般的な伝え方では理解しないことが多くあります。

### 子どもの視点に立って見たとき

1

もしその子がとても過敏な感覚を持っていて、口の中に入るものが母乳やミルクから違う口触りになったことに驚いて強い不安を感じたら、なかなか離乳食が進まないかもしれません。保護者や保育者からみると、「偏食」になります。



## 子どもの視点に立って見たとき ②

もしその子の「次に何が起こるのだろうか」を想像する力が弱く、いつもと違う状況で「どうしていいのかわからない」と不安や恐怖を感じたら、パニックを起こして興奮するし、いつも同じであることを好み、新しい場面を極度に嫌います。保護者や保育者からみると、繰り返しの遊びばかりを好み、やり方を変えると癇癪<sup>かんしゃく</sup>を起こす、登園をしづりいつまでもなじまない、遠足や運動会など特別な行事に参加しない、という行動になります。



## 子どもの視点に立って見たとき ③

もしその子が、自分の興味のあることには集中できるけれど、さほど興味のないことには集中できないとしたら、没頭している時に名前を呼ばれても気づかず返事をしないし、好きなブロック遊びを急にやめてトイレに行くよう促されても、次の行動に移れないかもしれません。保護者や保育者からみると、「言うことをきかない子」「わがままな子」「しつけのなっていない子」と思えるでしょう。



この「発達障害」という言葉についても、「障害がある」というよりは、「少数派である」という理解が広まりつつあります。その理解のほうが、過度に恐れたり避けることなく、子どもの発達を冷静に観られるかもしれません。

「何か反応が違う」という保護者や保育者の気づきで、子どもにとってより過ごしやすい環境にしてもらえたり、子どもにとってわかりやすく指示されるようになったり、できることや楽しめることが増えたら、とてもいいことだと思います。

子どもの気になる行動があれば1人で悩まずに、通っている園、保健センター、かかりつけ医などに相談してみましょう。

西保健センター（和庄1丁目2-13） Tel：0823-25-3542  
東保健センター（広古新開2丁目1-3） Tel：0823-71-9176

ほけんだよりは、くれ子育てねっとの子育て支援サービスでもご覧になることができます。

URL <http://www.kure-kosodate.com/>